取組３：全国相談会

3.0 相談員について

下記の専門家がフォーラム会場および地域に赴き、相談対応、個別指導を行なった。

●福井隆氏（東京農工大学　客員教授）

三重県生まれ。日本の過疎集落の再生を地域の現場で研究・提言をし、多くの実績を挙げてきた地元学の伝道者として知られる。とくに、研究者が研究の成果を地域に残さない傾向に対して、《すべては地域に還元》と信条として全国を歩き回っている。農林水産省「農山漁村活性化人材支援バンク」コーディネーター。全国新・田舎で働き隊全体コーディネート。

●鈴木宏一郎氏（北海道宝島旅行社　代表取締役）

合同会社北海道観光まちづくりセンター　業務執行社員。 1965 年北九州生まれ。北海道の体験型観光プログラムの検索予約サイト「北海道体験.com」創業。道内各地で観光まちづくり、インバウンドＦＩＴ（個人旅行客）送客を実施。同時に都市観光やレジャーと農村をつなぎ、野菜の収穫体験や農家民宿（ファームイン）などグリーンツーリズムを紹介し、経済面や雇用面など地域にさまざまな波及効果をもたらすことを目指している。観光庁観光地域づくりアドバイザー、北海道グリーンツーリズムネットワーク事務局長、農林水産省 6 次産業化ボランタリープランナーも務め、北海道の農山漁村の魅力を国内外に伝えている。

●坂元英俊氏（株式会社マインドシェア観光地域づくりプロデューサー）

1954 年熊本県生まれ。大学卒業後、農林水産省の外郭団体（財）日本農業土木総合研究所研究員として、全国の農村総合整備計画などの対策にかかわる。その後、(財) 阿蘇地域振興デザインセンター事務局長。阿蘇地域 1 市 7 町村の広域連携プロジェクトを行政・民間団体などと協働し推進。もてなしの人づくりを核にしたエコ・グリーン・タウンツーリズムによる地域振興と温泉や観光などの既存資源を一体化し、ゆっくり・のんびり過ごすスローな滞在交流型観光の阿蘇づくり「阿蘇カルデラツーリズム」を国、県、市町村、民間企業と協働して展開。平成 23 年度に阿蘇くじゅう観光園で「阿蘇ゆるっと博」を開催した。地域づくりと観光と公共交通を統合化した滞在交流型の観光戦略と九州の観光振興に寄与した功績で、平成 23 年 10 月、観光庁長官表彰を受賞。平成 24 年 10 月からは、これまで培ってきた観光地域づくりを全国の観光地域に役立てていきたいとの思いから、阿蘇 DC を退任。観光庁が復興支援で展開している東北観光博（阿蘇ゆるっと博がモデル）のアドバイザーや観光圏中核人材育成事業の委員を務めながら、地域づくり型観光の研究と実践を行っている。

●中村功芳氏（倉敷まちなか居住『くるま座』有鄰庵　庵主。プロデューサー）

岡山県倉敷市生まれ。倉敷のまちづくり活動『倉敷まちづくりネットワーク』で 2004 年初代世話人代表をつとめ、『倉敷ナンバー導入』『高梁川沿線のオーガニック農家を集めた三歳市開催』などの活動に関わる。2010 年にまちづくりの非営利団体『倉敷まちなか居住くるま座有鄰庵』を企画、地域の魅力を世界に発信し、交流する拠点づくりを行う。地域の住民の支持を得、全国的にも貴重な国指定重要伝統建築物保存地区の中の貴重な場所で築 100 年以上の町屋を預かりゲストハウスや古民家カフェの運営を始める。2010 年にまちづくりの非営利団体『倉敷まちなか居住くるま座有鄰庵』を企画。わずか 2 年で 40 カ国以上（稼働率９９％）、年間 40,000 人が集まる地域発信の拠点へと成長させた。その実積から現在は、

全国の地域や行政から古民家利活用、インバウンド、ゲストハウス運営の依頼が各地域から複数舞い込んでおり、早島町、真庭市、福岡、瀬戸内海島等で新たな事業を展開する。

●養父信夫氏（九州ムラたび応援団団長、「九州のムラ」編集長）
1962 年生まれ。福岡県宗像郡大島村玄海町（現宗像市）で幼少を過ごす。九州大学法学部卒業後、(株)リクルート入社。98 年に独立し「都市と農村をつなぐグリーンツーリズム」を広げる活動を開始。“悠々とした地域生活の総合誌”「九州のムラ」の発行に携わる。現在同誌編集長として地域に生きる人々の暮らしを中心に取材を重ね、ムラとマチを繋げる。また講演や地域づくりのアドバイザーなど、グリーンツーリズムやスローフード運動の啓蒙活動も積極的に行う。総務省の地域力創造アドバイザーとして、鹿児島県霧島市、加計呂麻島、薩摩川内市、長崎県対馬市、山口県山口市に携わる。“ムラガール”の名付親でもある。

●大野博之氏（認定 NPO 法人地球市民の会（ＴＰＡ）専務理事）
1964 年生まれ。佐賀大学産学・地域連携機構客員教授、障がい者ビジネススクール・ユニカレさが代表。明治大学政治経済学部卒業後専門商社入社、30 歳を機に退職し、ミャンマー・スリランカ・タイへの国際協力や 1000 人以上の韓国との国際交流を行なう「地球市民の会」に参加、2001 年より事務局長。以来、ミャンマープロジェクトマネジャーをはじめ、市民活動ファンド、震災復興支援活動に携わる。2014 年には障がい者の就労支援事業所をソーシャル・アントレプレナーとして経営開始するなど幅広く活動する。

●吉澤寿康氏（ゲスト・ハウス「阿蘇び心」主宰）
1974 年生まれ。広島県福山市出身。専門学校卒、旅行関係の会社を経て、日本一周の旅を行う中で出会った阿蘇へ 2002 年に移住。簡易宿泊のライダーハウスの経営や、地元農家と地元商店が地産地消で新鮮でおいしい逸品を食べて、遊んで、楽しめる『toma っとべりーな街』などの活動や阿蘇市観光協会スタッフとして宿泊者限定の「阿蘇カルデラツアー」、「阿蘇・高千穂・竹田３地域連携」に尽力するなど、旅や出会いの魅力を発信してきた。現在、ゲストハウス“阿蘇び心”経営し、外国人旅行者を多く受け入れ、立ち上げから運営のノウハウを現場でサポートし、ゲストハウスのプロデュースも行なうなど活躍の場を広げている。

●浜本奈鼓氏（NPO 法人くすの木自然館代表理事）
1960 年鹿児島県生まれ。1995 年に環境教育事務所くすの木自然館を設立。南九州の自然とその中に生き続ける文化をわかりやすく伝えるため、環境教育、都市づくり、農村景観、国際理解、食農教育に関する実践活動や講演活動を幅広く行っている。何より鹿児島を愛してやまない自然案内人。農林水産省 生物多様性戦略検討会委員。

●アレックス・カー氏（東洋文化研究家）
メリーランド州ベセスダ生まれ。日本では京都の町屋再生事業、コンサルティング事業を手がける株式会社庵（いおり）を 2003 年に創業し講演、執筆、コンサルティング事業も手がける。 外国人観光客の

誘致や各地域での古民家再生、コンサルティング活動等がきっかけとなり、2008 年 2 月より長崎県北松浦郡小値賀町の「観光まちづくり大使」などに任命され、各地でインバウンド観光の促進活動を行う。

●井澤一清氏（NPO 法人篪庵トラスト　副代表）
アレックス氏の原点でもある徳島県祖谷にある篪庵（ちいおり）を拠点として、2005 年に設立された特定非営利活動法人篪庵トラストの副代表。アレックス･カー氏のビジネスパートナーとして、篪庵での宿泊・見学を通じて国内外から多くのゲストを受け入れ、祖谷の生活体験を提供する活動を支える。2009 年からは地元の三好市と共に落合集落でのプロジェクトにカー氏とともに携わり、現在は 4 件の茅葺き民家を改修して、古民家ステイとして運営している。

●高砂樹史氏（㈱小値賀観光まちづくり公社　代表取締役）
1965 年大阪生まれ。立命館大学出身。10 年間の「わらび座」での劇団生活を経て、自給生活を目指し就農。2005 年に小値賀町へ移住。島でも田畑を耕しながら半自給生活を目指している。 移住当初は、「ながさき・島の自然学校」職員、平成１９年より３組織（民泊団体、自然学校、観光協会）が合併した「NPO 法人おぢかアイランドツーリズム協会」の設立に参加。アメリカ高校生の国際交流事業など小値賀町の「島ぐるみによる観光まちづくり」の取組が、平成２０年度には「ＪＴＢ交流文化賞最優秀賞」「オーライニッポン内閣総理大臣賞」などを受賞。また、平成２２年度より着地型旅行会社（㈱小値賀観光まちづくり公社）も立ち上げ、東洋文化研究家のアレックス・カー氏との連携で、江戸末期の古民家などを再生したレストランや宿泊施設を活用する「新しい島旅」事業も平成２２年９月にスタート。翌年平成２３度には、この古民家再生事業が「毎日新聞社グリーンツーリズム大賞」を受賞。 こうした島ぐるみの観光まちづくりの取組が平成２４年度「地域づくり総務大臣賞　大賞」を受賞。

●山岸宏氏（北海道グリーン・ツーリズムネットワーク会長／レストラン＆コテージ　カントリーパパオーナー）
鹿追町出身。畑作農家で育つ。「一人でも多くの人に農業そのものを理解してもらいたい」と 1994 年に農家レストランカントリーパパを開店。1998 年にコテージを開始。農村景観のあり方や人的な交流に目を向ける。

●梅崎靖志（当事業プロジェクトマネージャー／日本エコツーリズムセンター共同代表理事／風と土の自然学校　主宰）
埼玉県生まれ。環境省田貫湖ふれあい自然塾（静岡県富士宮市）を始め、各地の環境教育拠点施設において、体験プログラム開発、人材育成、滞在交流型観光のための仕組みづくりおよび運営業務を担当。このほか、西伊豆地域のエコツーリズム導入のための調査事業や、エコツーリズム関連の人材育成事業を多数担当。現在、山梨県都留市の農村集落にある古民家を拠点に「風と土の自然学校」を運営。パーマカルチャーや自然農の考え方を基本とした、循環型のライフスタイルをテーマにした講座には、首都圏からの参加者も多く、様々な体験を通じて都市と農村の交流に取り組んでいる。

●森　高一氏（日本エコツーリズムセンター 共同代表理事／株式会社森企画代表取締役／環境コミュニケーションプランナー）

1967 年東京生まれ。1990 年から環境教育、環境コミュニケーションの企画・プロデュースを仕事に。1992 年、日本環境教育フォーラムでエコツーリズム研究会をスタート、以降日本エコツーリズム協会の設立、日本エコツーリズムセンター（エコセン）の設立に関わる。現在エコセン共同代表のほか、大妻女子大と大正大で非常勤講師、ESD-J（「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議）でも理事を務める。

<table>
<tr><td colspan="6">3.1 東京会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 1</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="5">事業化（個人）</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年　7 月　　16 日／開始：　16 時　00 分　　－　終了　　17 時　　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">国立オリンピック記念青少年総合センターセンター棟（東京都渋谷区代々木）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">愛媛県市町村</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">地域おこし協力隊員</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：　任期切れ後は、協議会事務局として地域に残るが、一方で農家民泊や体験なども自身で行なうプレーヤーとしても兼任して活動したいと考えていた。それが地域にとっていいことなのかを悩み始めている。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（鈴木宏一郎氏、坂元英俊氏）
回答：
報酬が保障されてない中で、収入が確保できるかどうかが問題です。
収入の確保と時間をどれくらい割くかを冷静に考えつつ、絶対に兼任してやるべき。あなたのような若者が地域で成功モデルとなれば、後が続いていく。既にいる農家にお客さんを連れて行って、修学旅行やインバウンドなどの体験のコーディネートする人を目指して、プレーヤーとして確立していけば、かっこいい。地域には自分の利益のためにやっていると悪口を言う人もいるかもしれないが割り切ってやるべし。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>井上</td><td>報告日時</td><td>26 年/7/25</td><td>報告№</td><td>東京 1</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.1 東京会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 2</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="5">法令順守</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年　7 月　　16 日／開始:　16 時　00 分　　－　終了　　17 時　　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">国立オリンピック記念青少年総合センターセンター棟（東京都渋谷区代々木）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">群馬県</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">教育旅行団体</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談： 観光協会から独立させて作った一般社団で学校団体の受入を主にやっている。首都圏の中学生を農家民泊に受け入れで、年間５０００泊。相談は、群馬県の場合、法令順守や資格に関してのガイドラインがない。団体の取組が目立ち始めて保健所から注意を受けている。国の推進の動きは、県には伝わらず、条例制定に後ろ向き。どうするべきか。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（鈴木宏一郎氏、都市農村交流課・志田氏）
回答：
（鈴木宏一郎氏）簡易宿泊の資格（年間 2 万円）をとるべき。資格をとらなくてもマルと言っているが、何か事故が起きた時にこれまでの実績も全部吹っ飛ぶ、さらには大手旅行会社は取得している業者･団体でないと発注しないと言っているところもある。さらには、CONE の指導者資格、保険にも加入すべき。もうひとつは、町で 5000 人の受入は異常な多さなので、今後はすべて自分で受け入れるだけでなく、窓口・事務局として他の受入先に仕事を振って、マージンを稼げば感謝もされる。その点は積極的に前へ出るべき。
（都市農村交流課・志田氏）現在、教育旅行は文部科学省も積極的になり、受入側（農家民泊）を伸ばしていく側としては、業法の取得、保険の加入、研修会を受ける、ということをやっていただきたい。地方分権の中、国が県に強制するような世の中では、子ども受入に関しては農政局に協議会を設けたりなど、少しずつ気運を高めつつ、ご意見を真摯に受け止めてまいりたいと思います。みんなやってないからいいじゃないか、ではなくて、地域でちゃんとやっていく、ということが必要になっていきます。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>井上</td><td>報告日時</td><td>26 年/7/25</td><td>報告№</td><td>東京 2</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.1 東京会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 3</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="5">地域内外との連携</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年　7 月　　16 日／開始：　16 時　00 分　　－　終了　　17 時　　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">国立オリンピック記念青少年総合センターセンター棟（東京都渋谷区代々木）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">茨城県</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">体験交流 NPO</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：10 周年となって、インバウンドはまだまだこれからですが、国際交流を少しやっている。今日のお話の中で、宿泊、長期滞在は大事だなと。現在、海の体験活動をしているが、将来、森の体験も作り連携していきたい。地域住民との巻き込み方。行政との関わり方についてご相談したい。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（鈴木宏一郎氏）
回答：
地域住民の巻き込み方については、問題解決に取り組んで巻き込んでいくことが一つ。もう一つは、学びの場であるので、地域の特異性をうまく活かして、先生になってもらい、関わってもらう。行政に対しては、事業（予算）を持ってくる窓口・企画提案・申請代行をしますから、と協力関係を結ぶ。
LCC で茨城空港にたくさん来るインバウンド観光客を、素通りさせないで、地元周辺にも波及効果が得られるような仕組みを作りましょう、と行政に提案する。内容は、森の整備費用にも回るような事業計画を作ることが一番先です。広域になるので、相手は県のほうがいいかもしれない。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>井上</td><td>報告日時</td><td>26 年/7/25</td><td>報告№</td><td>東京 3</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.1 東京会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 4</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="5">地域でのコーディネート</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年 7 月　16 日／開始：　16 時　00 分　－　終了　17 時　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">国立オリンピック記念青少年総合センターセンター棟（東京都渋谷区代々木）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">宮城県</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">地域おこし協力隊員</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：体験型旅行を試行的にやっているが、みなさんが強調されている「何のためにやるのか」が地域では見えないし、共有されていない中で、自分はどこを目指すべきか。たとえば組織がない中で、組織をつくるべきなのか。自分としては体験旅行をやっていきたいというのもあるが、将来設計を考えると、はまってやれるか、両立できるか不安。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（鈴木氏、福井氏、坂元氏）

回答 1）地域に派遣されていながら、所属は市役所であるので、そのことは前提として、認識しておく。自分自身が、コーディネーターとプレーヤー半々でやりたいとしても、なかなか旅行業は食えない世界です。また、担当地域だけで受入をしてもキャパシティとしてはコーディネーター1 人分の給与にはならない。
回答 2）当地は被災地へのハブになる地域だから、広域で見て、たとえば被災地のスタディツアーのようなことの事業計画を書く。それを見越して今から、協力隊のうちに準備をしていく。
回答 3）ルーチンの仕事がないのであれば、協力隊の任期の残り時間、どのように地域の住民とやっていくのかの計画を見せて、主張していく。そうしていけば、辞める半年前には観光協会から声がかかるかもしれない。
回答 4）予算をとって、坂元氏を地域に講演で呼ぶ。釜石や大洗など先進的な取組を視察に行く。その話を、さぽじん（地域おこし協力隊事務局）や市役所に相談する。</td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>井上</td><td>報告日時</td><td>26 年/7/25</td><td>報告№</td><td>東京 4</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.2 北海道上富良野町</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 1</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="5">インバウンド体制づくり</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年 9 月　30 日／開始：　16 時　00 分　　－　終了　　17 時　　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">多田農園</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">北海道</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">ファームイン経営</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：今回、モニターツアーで外国人を受け入れて、ファームインや食事、畑での体験など、好評なことが分かった。だが、農場では、外国人の問い合わせに対応する体制が整っていない。今は暫定的に受入とともに窓口をやっているが、これ以上は難しい。一人ふたりなら対応可能だが、たくさんの旅行客が来ると対応ができない・・・。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（北海道宝島トラベル・大和寛氏、ねおす・荒井氏）
回答：
① 上富良野町には他にも外国人受入可能なファームインや農場はある。そろそろ地域として受け入れる時期に来ているのでは。予算をつけて、外国人対応窓口業務を行う人材の椅子を据えるべきでは。

② 地域に人材がいないのであれば、地域おこし協力隊を活用してはどうか。任期は期限付きだが、外国語能力のある若い人材が 3 年間でも外国人対応してくれることで、その間に体制整備推進の後押しにもなる。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>荒井</td><td>報告日時</td><td>26 年/10/31</td><td>報告№</td><td>上富良野 1</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.2 北海道上富良野町</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 2</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="5">人材育成</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年 9 月　30 日／開始：　16 時　00 分　　－　終了　　17 時　　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">多田農園</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">北海道</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">観光課</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：上富良野町の特徴的な農業を紹介できる資源はある。しかし、それを観光に結び付けられ切れてないのが課題。どうやったら、ファームステイなどをさせて農業を見せられるのか。うまくいけば農産物の定期購買に結び付けられ、農業に貢献できる観光事業ができるはず。
もしその人材に協力隊がいるのなら、制度にあまり詳しくないので聞きたい。
行政（観光課）で人材育成できるかが不安。観光協会に研修先として派遣して、活用すべき人材だと考えているのだが、それは可能なのか。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（北海道宝島トラベル・大和寛氏、ねおす・荒井氏）
回答：
地域おこし協力隊を役場から観光協会に派遣することは可能だ。
農業と観光とインバウンドを行うにあたって、必要なのは 2 つのコーディネーター。まずは（外国人）旅行者対応をする窓口コーディネーターがひとつ。もう一つは地域側・農家側を取りまとめるコーディネーター。先程の受入農家の話では、農家がコーディネーターをやるのは難しい現状がある。
地域がハラを決めて、その役職の人を予算をつけて、雇うかどうか。
町として方針を決める。言えるようにしていくことが今後の課題・テーマと言える。受入農家もそれを望んでいる。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>荒井</td><td>報告日時</td><td>26 年/10/31</td><td>報告№</td><td>上富良野 2</td></tr>
<tr><td colspan="6"></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.3 岡山会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 1</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="5">ゲストハウス起業／外国人受入新規</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年 10 月　7 日／開始：　16 時　00 分　　－　終了　　17 時　　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">ゲストハウス有鄰庵（岡山県倉敷市）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">岡山県高梁市成羽町</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">オーガニック食堂</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：来年中にゲストハウスを開業したい。カフェとゲストハウスを並行してやりたい。経営は家族でスタートの予定。オリンピックに向けて外国人観光客を増やしていきたい。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（中村氏、福井氏、鈴木宏一郎氏）
回答：
・（研修ワークショップで出した）コンセプトをもっと短くシンプルにするとよい。
・カフェで経済的基盤をつくると良い。
・オーガニックというコンセプトを追求したらよい。
・量と質、どちらを重視するかがポイント。
・ストーリーの掘り下げが大切。なぜその地でするのか、なぜオーガニックなのか
・グーグルの検索でヒットしたいキーワードはなにか。
・経営的努力をすれば絶対に黒字になる。
・ゲストハウスは単価 3000 円で 1 日平均 6 人入れば 1 人分の給料が出る
・質の追求が重要。奇跡のリンゴの木村さんお墨付き etc.
・デザイナーズホテルの感覚でゲストハウスを立ち上げ、運営する。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>瀧野</td><td>報告日時</td><td>26 年/11/7</td><td>報告№</td><td>岡山 1</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.3 岡山会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 2</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="5">起業／古民家活用</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年 10 月　7 日／開始：　16 時　00 分　　－　終了　　17 時　　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">ゲストハウス有鄰庵（岡山県倉敷市）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">兵庫県</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">無所属個人（宿泊施設勤務）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：篠山の城下町や田園風景に惚れて古民家を篠山に購入した。古民家は 15 年間無住。改装費は 1 千万はかかることが予想される。現在は宿泊施設のフロント業務をしている。貯金なし。
日帰りのリトリート施設を夫婦 2 人でしたいと思っている。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（中村氏、福井氏、鈴木宏一郎氏）
回答：
・採算が合う事業計画書を最初に作った方が良い。
・収入源がないとソーシャルマラソン（SNS と連動してマラソン中継する仕組み）の企画は難しい。
・現状では採算が合わない。
・月 6 万円で他の人に貸して 10 年後から本格的にスタートする（改装を任せたら月 3 万円）。
・今の仕事は辞めず、趣味の場所で別荘を購入したと考える。コツコツ修理しながら、その間に事業計画を作成する。
・日帰りプランは難しいと思われる。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>瀧野</td><td>報告日時</td><td>26 年/11/7</td><td>報告№</td><td>岡山 2</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.3 岡山会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 3</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="5">古民家活用</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年 10 月　7 日／開始：　16 時　00 分　　－　終了　　17 時　　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">ゲストハウス有鄰庵（岡山県倉敷市）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">愛媛県</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">GT 推進協議会</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：古民家をどのように有効活用するか。敷地 1500 坪の古民家を島に購入。
現在古民家改装中。半分は手つかず状態。
お遍路でお世話になったから今度はお世話する側になりたいとの想いで購入。
現在収入源なし。
また、ＧＴが県主体から民間主体になってきた。そんな中、自分ひとりで事業をするように言われて困っている。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（中村氏、福井氏、鈴木宏一郎氏）
回答：
・想いが 10 年続くかどうかが重要。
・利用客にフィルターをかける。ベッドで眠りたい人は他の宿へ行ってもらう。
・20 人以上収容人数ないとゲストハウスでは採算がとれない。
・収容人数は？必要収入は？そこを設定してから事業計画をつくる。
・小豆島の「まりの宿」　小値賀島のアレックスカーの「古民家」宿を参考にするとよい
・民営化については、どうしてそのようになったのか背景を行政に確認してみましょう。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>瀧野</td><td>報告日時</td><td>26 年/11/7</td><td>報告№</td><td>岡山 3</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.4 熊本会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 1</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="5">インバウンド集客／地域資源活用</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年　10 月　9 日／開始：　16 時　00 分　　－　終了　17 時　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">国立阿蘇青少年交流の家本館（熊本県阿蘇市一の宮町）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">宮崎県</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">農業体験推進協議会</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：団体客のインバウンド誘致について。以前、USA の団体客を実施したが、東日本大震災でキャンセルになって以来、それから海外からの客がゼロに。現状どのように団体客は訪日しているのか。具体的に。
もうひとつ、地域の資源である「陰陽石」を活かして何かできないか。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（大野氏）
回答：
回答 1）観光材料に姉妹都市を作りましょうと町長に提案し、その都市の人を誘致する。思い切って、ヨーロッパのどこかの都市に姉妹都市など。

回答 2）海外でも巨石ファンや聖地好きはいる。また、広島・宮島はフランス人観光客が多いが、それはモンサン=ミッシェルの都市と姉妹都市を締結しているので、向こうのガイドブックにはまず日本というと、宮島が出てくる。なので、世界の中で「代替の陰陽石」のような巨石文明の都市との交流を始める。都市同士のレベルの違いは気にしない。さらに、石であれば、伝説や伝承、宗教さらに環境とも結びつけて、文献や地誌を発掘して、ストーリーを作ってから依頼するなど。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>山口</td><td>報告日時</td><td>26 年/11/27</td><td>報告№</td><td>熊本 1</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.3 熊本会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 2</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="5">地域の気運の醸成</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年　10 月　9 日／開始：　16 時　00 分　　－　終了　17 時　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">国立阿蘇青少年交流の家本館（熊本県阿蘇市一の宮町）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">九州内自治体</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">市役所 GT 支援担当官</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：地域振興の兼ね合いでグリーンツーリズムの支援を行政の立場でやっている。地域には民泊実施者もおり、外国人の受入もやっている。しかし、旗振り役がいない。しがらみがあったり市がレベル的に中途半端で盛り上がりにかける。今後、どう抜け出すか。地域を刺激して同方向にむかせる指南とか、持っていき方についてアドバイスやご指摘いただきたい。年間 2800 人受け入れてその半分が外国人である。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（浜本氏、養父氏、大野氏）
回答：
（浜本氏）市の取組は進んでいるので、現状“点”（グリーンツーリズムの観光資源）が見えているはず。その点をつなぐために、行政として旗を振ってください。ただし、担当を離れても 5 年 10 年振り続ける覚悟を持ってください。自分の地区を行政が褒めると民間は嬉しい。それで外国人集客が増えると、国内の誘致にもつながります。あとは“点”の実践者たちに、“点”から“面”の事例を教えることで、「自分たちもできそう」「みんなで視察に行ってみよう」という動きにつながっていけばよいと思います。
（養父氏）地域おこし協力隊での事例でいうと、まず農水や観光等、各部局の行政マンに集まってもらい、作戦会議を 2 時間行なう。そうして足りない機能が分かったら協力隊が動くようにする。これまでの行政の平等主義は捨てて、「がんばっているところに注力・応援する」と腹を決める。地元の人でキーマンになる人を見つけて、事例のあるところに研修に行ける予算を組むなど、戦略的に。
（大野氏）（相談者に質問）1400 人に御礼の手紙は送っているのか（相談者「送っているかもしれないが分からない」）。
（回答）地球市民の会では寄付者に 7 回御礼をする。タイミングは季節の変わり目。そのためにも 1400 人をリスト化する。もうひとつは農家民宿がどれくらい儲かっているのかということを見える化・公開する。妬みにつながるということではなく「儲かるシステム、仕組み」を標準化・公開する。実際に儲かっているモデルを構築して、それで広げていくという方が有効。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>山口</td><td>報告日時</td><td>26 年/11/27</td><td>報告№</td><td>熊本 2</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.5.四万十市、四万十町</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 1</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="5">ツアープログラム企画</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年　　7 月　　29 日-30 日</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">四万十川財団（高知県高岡郡四万十町琴平町）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">高知県四万十市、四万十町</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">四万十川財団</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：モニターツアーのプログラムとして、どのようなものが適切か。外国人を案内したいものとして、「四万十すみずみツーリズム」の中から農体験、農家民宿、農家レストランなどを挙げたい。このほかに、四万十川の体験として川エビ漁とカヌー体験をいれたいし、最近取り組んでいるサイクリングツアーなども試してみたい。2 日間で実施できるか。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（森高一）
回答：実際のツアーでは、アクティビティを詰め込みすぎないのが重要。旅行者のフリー時間も効果的に設けられるのがよい。今回のモニターツアーでは、地域で試したい内容をぜひ盛り込んでいただきたいが、内容的に 1 泊 2 日で収めるのが難しいと感じる。2 泊 3 日のツアープログラムで検討したらどうか。特に、自転車で四万十流域をまわるプログラムは、四万十の川と里を体感するのに最適だと思う。カヌー体験では川からの視点、自転車からだと陸からの視点が得られて、組み合わせることで相乗効果が期待できる。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>森高一</td><td>報告日時</td><td>26 年/10/31</td><td>報告№</td><td>四万十 1</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.5.四万十市、四万十町</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 2</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="5">集客・アクセス</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年　　7 月　　29 日-30 日</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">四万十川財団（高知県高岡郡四万十町琴平町）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">高知県四万十市、四万十町</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">四万十川財団</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：移動について、山間部ではマイクロバスでも入りづらいところがある。高知空港や駅からアクセスするにしても、四万十町・四万十市まではけっこう遠く、バスでの移動が想定できるが、どんな移動がよいか。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（森高一）
回答：グリーンツーリズムの実践地の多くは、公共交通機関が少なく、空港や主要駅からのアクセスが大きな課題になっている。フリーの旅行者はレンタカーで移動するケースが出ており、小グループであれば大型のワンボックスカーを見かける。今回のモニターツアーでは、県や行政のバスなどお借りすることが検討できればありがたいが、中型バスをチャーターして実施しするのでどうか。この場合、旅行業法と道路運送法上のクリアをしなくてはならず、できれば地元の第 3 種の登録をした事業者により旅行主催となる必要がある。県などからご紹介いただいて、協力を得たい。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>森高一</td><td>報告日時</td><td>26 年/10/31</td><td>報告№</td><td>四万十 2</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.5.四万十市、四万十町</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 3</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="5">資源・コンテンツの有効活用</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年　　7 月　　29 日-30 日</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">四万十川財団（高知県高岡郡四万十町琴平町）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">高知県四万十市、四万十町</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">四万十川財団</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：いい意味でも悪い意味でも、「清流四万十川」のブランド化ができているので、それ以外の地域の魅力が打ち出しづらいところがある。グリーンツーリズムでいう作物のおいしさや、地酒もあるし、古い民家など、コンテンツはたくさんあるので、それらをうまく活用できないか考えたい。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（森高一）
回答：今回のモニターツアーでは、いただいたツアープランを拝見して、地域の拠点ひとつひとつで打ち出すよりも、面的な広がりとして魅力を作れたらいいのではと思った。それをつなぐコンセプトが重要で、こちらから提案すると、四万十の水がつなぐもので農や暮らしを体験いただくのがよいのではないか。四万十の水の恵みで、米しかり酒しかり、地のおいしい作物が育ち、鮎や鰻の川魚が味わえる。それを暮らしに活かしてきた文化がここにはあるので、そのものを旅行者に伝わるように組めたらいいと思う。なるべく地域の方との直接的な交流を前面にし、特別でなく普段の生活を体験いただくものにできればと良いと思う。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>森高一</td><td>報告日時</td><td>26 年/10/31</td><td>報告№</td><td>四万十 3</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.6 長崎会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 1</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="5">古民家活用</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年 11 月 19 日／開始：10 時 30 分　－　終了　11 時　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">レストラン「藤松」（長崎県小値賀町）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">沖縄県離島</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">離島観光協会</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：古民家の改修を久米島でも進めたいが、建築や備品類を紹介していただくことはできるのか？</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（アレックス・カー）
回答：以下の通り回答した。
① インテリアや備品リストなどの必要なものはすべて提供している。感性の問題と、お客さんのニーズが重要。
② 家を直す場合、必ず地元の設計士やゼネコンを使う。技術面では素晴らしいものを持っているが、素材の勉強や現代的な感性の勉強ができていないことがある。床材、照明、イス、蛇口 1 つなども見せて教えると、彼らもイメージができる。そうしないと普通の面白くないものができてしまうので、注意が必要。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>梅崎</td><td>報告日時</td><td>26 年/12/26</td><td>報告№</td><td>長崎 1</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.6 長崎会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 2</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="5">言葉の問題</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年 11 月 19 日／開始：10 時 30 分　　－　終了　11 時　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">レストラン「藤松」（長崎県小値賀町）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">宮崎県</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">地域おこし団体</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：通訳案内士の資格がハードルになるが、どのようにクリアすればよいか？</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（梅崎靖志）
回答：　以下の通り回答した。
①外国語を使って日本のことを紹介する場合は、資格が必要になる。
日本語で話された内容を外国語のできる人が通訳するのであれば、通訳案内士の資格がなくても可能。また、通訳案内士が必ずしも地元の生活文化や歴史に通じているわけではないので、現状では 2 人組で対応するのが現実的。島のことがよくわかっている人がいれば通訳案内士 1 人で案内できる。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>梅崎</td><td>報告日時</td><td>26 年/12/26</td><td>報告№</td><td>長崎 2</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.6 長崎会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 3</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="5">古民家活用</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年 11 月 20 日／開始：11 時 00 分　－　終了　12 時　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">小値賀町役場</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">沖縄県離島</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">離島観光協会</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：今年から、島では行政の支援を受けながら民泊が始まる。新しい取り組みとして古民家ステイもやりたいと感じた。古民家改修の際に補助金を利用したということだが、これは行政からやって欲しいという要望で始まったのか、行政に自分たちから持ち込んだ話なのか？行政からの支援をどのように受けたかを教えて欲しい。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（アレックス・カー）
回答：以下の通り回答した。
・補助金は、篠庵（ちいおり）の改修だけは自己資金三割だが、他はすべて国の補助金で実施した。
・地域の要望ではなく、行政主導で行った。行政が持ち主を一軒ずつまわり、理解を得ていった。20～30 年の長期契約を結び、ほとんど無料で貸してもらい、その代わり行政がきれいにした。そして、オーナーは優先的に何日か泊まれるようにしたことで納得してくれた。
・三好市は住宅交付金や空き家対策のお金のほか、落合集落は、文化庁のお金の交付を受けて改修した。この事業について言えば、当時の三好市の市長のリーダーシップが合って進んだ。小値賀も町長主導で実施した。ビジョンのある市長がいれば動く。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>梅崎</td><td>報告日時</td><td>26 年/12/26</td><td>報告№</td><td>長崎 3</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.6 長崎会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 4</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="5">参加者対応（子ども）</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年 11 月 20 日／開始：11 時 00 分　－　終了　12 時　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">小値賀町役場</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">離島</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">離島観光協会</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：先日、小学生がグループでホームビジットとして夕飯体験に来た。その中に、言葉遣いの悪い男の子がいたので、とてもしかったと報告してくれた。学校の先生にどこまで話せばよいか迷った。民家さんは生徒に「学校には言わない」と約束したと言う。添乗員、先生に伝えるべきかどうか。実際にあったケースについて、対応方法を教えて欲しい。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（高砂氏）
回答：以下の通り回答した。
・きちんと叱る事は必要。
・報告するかどうかは、やってしまったことが何かという内容によるが、約束を守ることを基本とすればいいだろう。
・人として許せない、いじめなどであれば、学校や親御さんへ引き継いでいかなければならないと思う。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>梅崎</td><td>報告日時</td><td>26 年/12/26</td><td>報告№</td><td>長崎 4</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.6 長崎会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 5</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="5">外国人受入実務</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年 11 月 20 日／開始：11 時 00 分　　－　終了　12 時　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">小値賀町役場</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">宮崎県</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">地域おこし団体</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：外国人留学生を受け入れることが決まっている。ホテル旅館は全くない。具体的には、どこから始めればいいか？古い集落なので、暮らしの中で体験できることもあるので、ステイに耐えられる地域づくりをやっていきたい。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（高砂氏、梅崎）
回答：以下の通り回答した。
①過ごし方：小値賀では、初期は過ごし方のモデルを作った。
②保険：宿泊施設であれば、宿泊施設が入らなければ行けない保険がある。民泊であれば、体験型の保険に入る。JTB の基準で言えば 1 人 7,000 万円程度まで対応できる賠償保険への加入。おぢかアイランドツーリズム協会で言えば、旅行業で入る保険、宿泊施設で入る保険、体験事業で入る保険と 3 重になっている。
③リスクマネジメント：リスクマネジメントは必ずしなければならないこと。海のプログラムや食事、スズメバチなど、命の危険に関わることがある。
④事故発生時の対応：連絡体制や、救急法のトレーニング、事故報告書の作成やヒヤリハットの蓄積。リスクマネジメント研修を実施した記録を残す、等が重要になってくる。
⑤情報提供：外国人の場合、日本人にはごく当たり前のことでもていねいにガイダンスすることが、お互い気持ちよく過ごす上で大切。小値賀では、生活の基本的なことはできるだけ表示している。
⑥緊急時の対応：エマージェンシーカードを渡していて、民家さんが困ったときには英語でコミュニケーションできる人に連絡がとれるようにしている。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>梅崎</td><td>報告日時</td><td>26 年/12/26</td><td>報告№</td><td>長崎 5</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.6 長崎会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 6</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="5">インバウンド体制づくり</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年 11 月 20 日／開始：11 時 00 分　－　終了　12 時　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">小値賀町役場</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">沖縄県離島</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">離島観光協会</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：インバウンドを進める上で、旅行社との契約は 1 社との独占契約がよいのか？</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（梅崎）
回答：以下の通り回答した。
　独占契約することで、旅行社にとってインセンティブとなるので営業に力を入れてもらえる面があるだろう。独占契約でスタートして、その後、様子を見ながら他社へ拡げていくこともできる。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>梅崎</td><td>報告日時</td><td>26 年/12/26</td><td>報告№</td><td>長崎 6</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.7 南アルプス市</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談会 1</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="5">ツアープログラム企画</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年 9 月 20 日／開始：13 時 00 分　　～　終了　17 時　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">山梨県南アルプス市有野１０９０　有野公民館</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">南アルプス市</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">南アルプス市地域雇用創造協議会
事務局、ガイド（A～I）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：インバウンド受け入れ体制整備のため、モニターツアー造成について地域を背景としたツアーコンセプトの創り方について指導をお願いしたい。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（福井）
回答：「農山漁村の魅力を感じて来ていただくためのポイント等」について以下のような回答、指導をおこなった。
①点の魅力ではなく、面的魅力を創り出す(プロバンスのハーブのある暮らし等を例に)ことが大切。
②「コンセプト」をどう創るか。南アルプス市の魅力は何と言っても水に苦労した歴史(治水・利水)であり、それをどのようなコンセプトで表現するか。例えば「水の恵み旅」と言うように決め、そのコンセプトに沿ったツアーを造成する。
➪次回までに関係者で協議し決定することとなった。(コンセプトとツアー内容)
③モニターツアー日程等について相談、協議した。
具体的な協議事項は、日程（案)、モニターツアー準備と役割、ワーキンググループについて
④モニターツアーの内容について、質量が増大する可能性が高いため実行委員会メンバーを増やす必要が生じ、受講者(ｴｺﾂｰﾘｽﾞﾑｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ養成講習会)全員に呼びかけることを決定した(次回から出席依頼　合計１２名予定)
➪受入体制整備の指導をおこなった</td></tr>
<tr><td>その後の
対応</td><td colspan="5">＊相談会後、別途対応や連絡が必要な場合は記入ください。
11 月 3 日、あらためてツアー内容、受入体制についての相談会を実施することとなった。
相談会の様子
 </td></tr>
<tr><td>告者</td><td>福井</td><td>報告日時</td><td>26 年/9/21</td><td>報告№</td><td>南アルプス 1</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">3.7 南アルプス市</td></tr>
<tr><td colspan="3">相談会 2</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="2">ツアープログラム実施</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="2">平成 26 年 11 月 3 日／開始：13 時 00 分　　～　終了　17 時　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="2">山梨県南アルプス市有野１０９０　有野公民館</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td>南アルプス市</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td>南アルプス市地域雇用創造協議会
事務局、ガイド（A～I）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="2">相談：11 月 22 日～23 日に実施するインバウンドモニタアーツアープログラムと受入体制について、自分たちで創った内容で良いかの相談</td></tr>
<tr><td colspan="2">回答者（福井隆氏）
回答：①日程案について 10/24 に決定した日程案等をもう一度説明を聞き、一つずつ具体的に内容を確認し意見を出し合いながら追加・修正した。（ひとつの場所ごとにプログラムを作成する。そのために次回までに各担当が説明者等と打ち合わせをして各プログラムを作成することとした）
日程については、いくつか細かい点を修正し別紙の日程案に落ち着く。（その後の対応に記入）
②準備と役割についての相談指導をおこなった。（別紙その後の対応に記入）
・当日の各委員の役割については、各担当がその場所に張り付く。
・水宮神社、提灯行列・夜祭、交換会（宿泊所）、ほうとう食体験は全員参加。
写真：相談会の様子
 </td></tr>
<tr><td>その後の
対応</td><td colspan="2">＊相談会後、別途対応や連絡が必要な場合は記入ください。
次回、メンバーだけで集まって平成 26 年 11 月 13 日（木）午後 7 時 30 分より有野公民館にて最終の協議をおこなうこととなった。
また、夜のお祭りのちょうちん行列に参加することが体力面等で大丈夫かどうかを、11/8 の夜、メンバーで提灯行列コースを歩き旅行者が普通に歩けるコースかを確認し次回委員会時に日程に入れるか確定するよう指導した。</td></tr>
</table>

	＜ツアー内容＞外国人モニターツアー日程(案) ・期日　２０１４年１１月２２日(土)～２３日(日) ・コンセプト　『水の恵み旅』 ・１泊２日(一人３０，０００円)の旅を想定 ◎１１月２２日(土)　１日目 11:00 甲府駅集合・出発(車にて)―11：45①水宮神社(お参り・水宮神社の概要説明・お茶、ランチ、フルーツ(加工品を含めて多種類)のおもてなし ―13:30②(忍者の衣装 or ハッピ着用―(移動中に良い風景(例えばループ橋から)を見ながらいければ理想的) 14:00③あんぽ柿づくり体験（つるし柿の風景、展望の良い農家の庭先等にて） 16:00 宿泊所(温泉　未定)へﾁｪｯｸｲﾝ(少し休憩)―17:30 宿泊所発 ―18:00④穂見神社夜祭提灯行列参加(ほたるみ館出発　夕食の用意　星、月、川のせせらぎ重要) 20:00⑤高尾穂見神社(夜祭体験：神社概要説明・祈祷・餅まき・神楽見学等)―21:00 穂見神社発(車)―21:30⑨宿泊所着(入浴・就寝) 〇高尾夜祭参加について ・参加費は一人１，０００円(提灯、お守り、トン汁、保険代) ・夜祭参加には①運動靴②着替え③ヘッドライト(出来れば)が必要 ・穂見神社の駐車場は２００台OK ◎１１月２３日(日)　２日目 〇朝食(フルーツが多種類出せれば) 9:00 宿泊所発―9:30 氷室神社(神社概要説明・参拝・復活の水・1200 年ご神木(大杉))―林道通過―⑦南アルプス眺望箇所-富士山眺望箇所通過 ―10:20 池の茶屋駐車場―10:45⑦(展望台：八ヶ岳・鳳凰三山・甲斐駒ケ岳・北岳)―11:15 池の茶屋発―12:00⑧ほたるみ館(昼食：ほうとう食べ体験) ―13:30⑨治水・利水施設見学(四ヶまち堰頭取口・石積み出し・枡形堤防・調整池・将棋頭・ｽﾌﾟﾘﾝｸﾗｰﾃﾞﾓﾝｽﾄﾚｰｼｮﾝ・その都度概要説明)―15:00⑩ティータイム(矢崎家にて ｱﾝｹｰﾄ等)―15:30 矢崎家発―16:00 甲府駅着(信玄銅像前にて記念撮影)―16:15 解散 ◎氷室神社「神秘の水(復活の水)」の仕掛けの例 　朝食時に予め用意した(氷室神社から湧き出ている水をペットボトル(洒落たビンでも良い)に詰めておき、宿の冷蔵庫で冷やしておく等)水を飲ませ or その水でコーヒーを入れる(この時、この水は神秘(復活)の水であることを PR)。その後、氷室神社で神秘(復活)の水を希望者だけペットボトル等に詰めてもらう。

◎モニターツアー準備と役割　　○印は責任者です

担当名	担当者	内容	備考
統　　括	事務局	モニターツアー全体をコーディネートし統括する	
① 水宮神社、⑨利水・治水施設見学担当	○○	水宮神社、治水・利水施設見学の企画・準備。お茶、昼食弁当等の手配。説明者との打合わせ他。	
② 忍者・ﾊｯﾋﾟ、③ あんぽ柿、⑦富士山・南アルプス眺望担当	○○	忍者服 or ハッピの手配。ｱﾝﾎﾟ柿づくり体験、富士山・南アルプスの眺望企画・準備。あんぽ柿つくり指導者との打ち合わせ他。展望台でコーヒー&タルトを出す。パラグライダー場借用（あんぽ柿づくり）	
④ 灯行列、⑤穂見神社夜祭参加、⑧ほたるみ館昼食（ほうとう食）担当	○○	高尾穂見神社夜祭参加、２日目昼食（ほうとう食）の企画・準備。夕食準備（ランチボックス等で）。説明者との打合わせ他	
⑥氷室神社、⑩ティータイム、宿泊所担当	○○	氷室神社参拝、ティータイム企画・準備。宿泊所の手配。説明者との打合わせ他。	
通訳担当	○○	当日の通訳内容等の企画・準備。	
配車担当	市役所	ツアー中の配車企画・準備。	
広報担当	市役所、協議会	ツアーの PR 企画・準備。当日の写真撮影	

	事務局	協議会、市役所	ツアー準備・当日の庶務、会計、記録等		
報告者	福井	報告日時	26 年/11/4	報告№	南アルプス 2

3.7 南アルプス市		
相談会 3		
相談内容	モニターツアーのふりかえり	
日時	平成 26 年 12 月 11 日／開始：１時 00 分　～　終了　5 時　00 分	
会場	山梨県南アルプス市有野１０９０　有野公民館	
相談者	地域	南アルプス市
	団体・所属	南アルプス市地域雇用創造協議会 青沼さえ子、小林富士男、小川秀一、名取寛、東海林、中込雄二、有野一成（協議会事務局）
具体的な相談と回答	相談：インバウンド受け入れ体制整備のため、モニターツアーの実施を受け今後の体制について相談を受けた。まずは、モニターツアーの反省と評価をおこない、今後についての方向性を示した。	
	回答者（福井隆氏） 回答：「今後のインバウンドツアー受入」について以下のような回答、指導をおこなった。 まずは、関係者の反省ポイントの確認から ●反省ポイント ①モニターツアーの反省点について、各自から以下の反省点と感想が出る。 ○全体的には成功したが時間的に詰め込みすぎた。一つ一つ詰めていけば、今後すごく良いものができる。 ○天気に恵まれた。時間的にも内容的にも詰め込みすぎの部分があった。 ○担当内は上手くいったが時間的に余裕がなかった。 ○初めての経験で慣れてなかったこともあり、受け入れ側の体制が整ってなくて時間等が詰まってしまう等支障があった。 ○日程的に込み入っていた。２日間との天気が良く助けられた。 ○ほたるみ館が日程のベースになっていたのでそこで落着くことができ良かっ	

<table>
<tr><td></td><td colspan="5">た。
〇細かい点はいくつか反省すべきところがあるが全体的に各担当の準備等が良く出来ており一つ一つ内容は充実していた。しかし、皆さんもご指摘のように内容を盛りだくさん盛りすぎて時間的に余裕がなく、ツアー参加者には忙しい旅をさせてしまった感がある。特に氷室神社ではもう少しゆっくりした日程があればと感じた。
◎要約
全体的には成功だが日程を詰め込みすぎでツアー客を急がせすぎた。今後は一つ一つの体験・見学場所でゆっくり過ごすことが必要である。さらに受け入れ体制をしっかりしていくことが必要である。また、インバウンド観光の体制整備のポイントとして、時間をゆっくり楽しみたいと言う欧米の人たちの志向やニーズに対応し、農山漁村のゆっくりとした時間の過ごし方を「コンテンツ」として提供することが一つの方向性であることが確認できたと言える。
●次にモニターツアー参加者のアンケート結果について検討した。
・福井からモニターツアー参加者からのアンケートの結果（別紙）説明
〇内容について、今回のツアーの中身については大満足していただけたことが伺える。しかし、日程的には、やはり余裕がないところが多分に見受けられ、今後はあれもこれもではなく幾つかに絞り込んで日程を組むことが大切であると指摘し、メンバーで確認した。
●今後の実行委員会の方向と受入体制整備について
・福井から、久留米市等の人気ツアー（「まち旅」の成功事例）の内容について紹介し、今後、本実行委員会が進んでいく方向について指導協議した。具体的には、コンセプトに沿ったツアーをさらに充実させ、プログラムも複数開発すること。また、受入体制としての組織、マネージメント体制を立ち上げることが必要であることを確認した。
・協議の結果、本年度の３月までに本実行委員会のメンバーを中心として協議会を発足し、来年度、本事業のノウハウや久留米市の先進事例等を学びながらいくつかのツアーを実施していく方向が確認された。このことは、１２月２９日に開く次回委員会で最終決定することになった。
➪受入体制の方向性が固まった。</td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>福井</td><td>報告日時</td><td>26 年/12/25</td><td>報告№</td><td>南アルプス 3</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.8 札幌会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 1</td></tr>
<tr><td>相談内容</td><td colspan="5">GT への新規参入</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年　12 月　2 日／開始：　16 時　30 分　－　終了 18 時　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">ホテル札幌ガーデンパレス</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">道央</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">ファームステイ・体験農場</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：畑作農家でこれからファームステイと農業体験の受入を行っていく。北海道グリーンツーリズムのネットワークも活用させて頂き、体制を整えることと営業をしていきたい。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（鈴木氏、山岸氏、福井氏）
回答：
本業がありながらのビジターの受け入れは、何を目的に旅行者を受け入れるのか今一度コンセプトを確認することが大切。自らの農作物の売り先を広げる、農業全体の普及啓発など様々。忙しい中での対応となると思うので、常にここに立ち返ることは大切だし、お客にとっても魅力が高まる。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>荒井</td><td>報告日時</td><td>27 年/1/26</td><td>報告№</td><td>札幌 1</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.8 札幌会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 2</td></tr>
<tr><td>相談会の目的</td><td colspan="5">集客・アクセス</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年　12 月　2 日／開始：　16 時　30 分　－　終了 18 時　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">ホテル札幌ガーデンパレス</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">道北</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">農家民泊体験</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：これまでは修学旅行や個人旅行者のファームステイを受け入れて来た。海外からの旅行者の受入を積極的に広報するつもりは無いが、来た際には断るつもりもない。無理せず出来る範囲で出来ることを実施していきたいと思っている。浜頓別は旭川空港から 4 時間かかる。海外からの旅行者にとっては来にくいところだと思うが、実際に来てもらえるのだろうか。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（鈴木氏、山岸氏、福井氏）
回答：
・旭川空港から 4 時間。千歳空港からは 6 時間もかかるので、海外からの旅行者にとっては非常に行きにくいところだろう。一方で、歌登町にタイからの旅行者がきている事例もあるので、常に可能性はあると思う。
・大人数の受入はせずに、まずは、１、２件の外国人を受け入れてみて、その口コミを広げていくのがよいと思う。「オホーツク」は流氷観光の影響でブランドイメージは高い。これまで行ったことのないオホーツク的な視点で、稚内周辺の暮らしを表現していく地域 DNA をぜひ考えてほしい。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>荒井</td><td>報告日時</td><td>27 年/1/26</td><td>報告№</td><td>札幌 2</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.8 札幌会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 3</td></tr>
<tr><td>相談会の目的</td><td colspan="5">体験の価格</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年　12 月　2 日／開始：　16 時　30 分　－　終了 18 時　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">ホテル札幌ガーデンパレス</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">道南</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">体験牧場</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：体験料を安く設定している。しかし、この金額でのサービス提供は経営的に大変だと感じている。一方で値上げをすることによる客離れが不安である。周りには多くの同業者もいる。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（鈴木氏、山岸氏、福井氏）
回答：
・他の会社と比べて、クオリティが高く、ブランドイメージも良いし知れ渡っていると思う。値上げをすることには全く問題ないと感じている。自信をもってやってほしい。
・現状で多くの外国人旅行者が訪れ、ジェラートの販売と体験観光でしっかりやっているように見える。札幌の牧場から移住しこの地に根ざしてやっている歴史もある。単なる体験牧場ではなく、北海道の酪農の歴史などより深みのあるプログラムが実施できる可能性もあると思っている。
・外国人向けの言語はどうしているのか？→基本的には日本語で。片言の英語とジェスチャーが主。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>荒井</td><td>報告日時</td><td>27 年/ 1 /26</td><td>報告№</td><td>札幌 3</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.8 札幌会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 4</td></tr>
<tr><td>相談会の目的</td><td colspan="5">既存プログラムからインバウンドへの発展</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年　12 月　2 日／開始：　16 時　30 分　－　終了 18 時　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">ホテル札幌ガーデンパレス</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">道南</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">体験推進協議会</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：子供の宿泊体験を中心に、子供の長期宿泊体験を推進するためのプログラムづくりをしてきた。これを外国人向けにアレンジすることをこれから考えたい。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（鈴木氏、山岸氏、福井氏）
回答：
・これまで整えてきた体制を、外国人向けにも使えると思う。地元の理解が得られれば子供に限定することはせず、大人にも農家民泊等を提供できると良い。
・寺部さんのようなコーディネーターが地域には必要である。農山漁村交流単体では、そのようなコーディネーターを置くだけの人数はいないかもしれないが、観光協会やコンベンション協会などと連携して、外国人受付窓口があると十勝は広がる気がする。北海道の食料基地としても外国人受け入れは頑張ってほしい。
・大人数を複数の農家で受け入れるなどとは考えずに、１ファミリー4 名様を受け入れる農家さんがあっても良い。「十勝の農業体験」「農家民泊」として外国人の家族が、農家さんの家にホームステイする内容でのプログラムは無理が無いと思う。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>荒井</td><td>報告日時</td><td>27 年/1/26</td><td>報告№</td><td>札幌 4</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.8 札幌会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 5</td></tr>
<tr><td>相談会の目的</td><td colspan="5">受入窓口機能について</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年　12 月　2 日／開始：　16 時　30 分　－　終了 18 時　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">ホテル札幌ガーデンパレス</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">道内</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">地域 GT 推進会</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：私たちの活動場所は、千歳空港から 1 時間以内である。アクセスが良いので北海道のゲートウェイとなる可能性も考えたい。必要な条件は何か？</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（鈴木氏、山岸氏、福井氏）
回答：
・拠点となるコンシェルジュ・インフォメーションセンター。ここでは事前のやり取り、当日の立寄りインフォメーションセンターとなる。　ゲートウェイとしてワンストップで全ての情報収集や手配ができ、何かあれば相談できる窓口はとてもありがたいと考える。一方でそのコストをどう負担するかが鍵。これは自治体の支援や観光業者とで協議しながら、方針を立てて整備していくべきこと。
・JICA など日本での研修や在日外国人を対象にしたプログラムを実施して、地域の人が、外国人対応をしていくのはとてもよいステップだと思う。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>荒井</td><td>報告日時</td><td>27 年/1/26</td><td>報告№</td><td>札幌 5</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.8 札幌会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 6</td></tr>
<tr><td>相談会の目的</td><td colspan="5">地域の受入意欲</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年　12 月　2 日／開始：　16 時　30 分　－　終了 18 時　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">ホテル札幌ガーデンパレス</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">北海道内</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">体験・農家民泊農場</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：子供の農家民泊を初めて１０年になる。長沼や空知管内、十勝管内とも連携しながら、農村交流体験の推進を進めて来た。外国人を受け入れるにあたっては、受け入れ農家さんにとってのハードルが高い。言葉が通じないで不安感が高まってしまう。そう簡単ではない。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（鈴木氏、山岸氏、福井氏）
回答：
・これは他の地域の事例を聞くと良い。まだ数は少ないが、そのような苦労をして、地域の合意をとり外国人を受け入れ始めたところは増えつつある。これは外国人に限らず、１５年ほど前にファームインを始めたときに「旅行者をうちに泊めるなんて…」の感覚と同じだと思う。
・東川町の場合シンポジウムのパネルディスカッションにあったとおり、既に多くの外国人留学生が来ている。この人たちを対象に民泊をすることは地域の農家さんにとっては良い練習になるだろう。
・なぜ外国人旅行者を受け入れるのかの部分をしっかりと共有することが重要</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>荒井</td><td>報告日時</td><td>27 年/1/26</td><td>報告№</td><td>札幌 6</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.8 札幌会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 7</td></tr>
<tr><td>相談会の目的</td><td colspan="5">インバウンドの人材育成</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年　12 月　2 日／開始：　16 時　30 分　－　終了 18 時　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">ホテル札幌ガーデンパレス</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">札幌市</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">NPO 法人</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：子ども農山漁村交流プロジェクトやふくしまの子供たちを受け入れる事業で２００人程度の若者を現場に送り込んでいる。そのために事前研修会や若者のやる気を高めるイベントを行っている。　外国人向けのグリーンツーリズムの推進にあたってどのような役割の担うことができるのか？</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（鈴木氏、山岸氏、福井氏）
回答：
・高齢化の進む農村にこのような形で若者との交流を生み出すのはすばらしい。
・外国人対応においては言葉の問題があるので、外国語を学んでいる学生と旅行者と農家さんのマッチングができると、受け入れやすくなるかもしれない。
・若者は、研修中の身。おもてなしなどでは未熟なところもあるだろう。一方で旅行者はお金を時間をかけて北海道に来ている。そんな外国人旅行者に意識の低い若者を付けると旅行者の満足度は下がるので、マッチングは慎重にしなくてはいけない。事前研修や継続的な関わりの中で段階的に人材が育っていく仕組みが必要だろう。　この課題をクリアできるコーディネートができると、多くの若者が多くの外国人を受け入れられるようになり社会的に意義がある。頑張ってほしい。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>荒井</td><td>報告日時</td><td>27 年/1/26</td><td>報告№</td><td>札幌 7</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.9 十勝会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 1</td></tr>
<tr><td>相談会の目的</td><td colspan="5">インバウンド受入体制</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年　12 月　3 日／開始：　9 時　30 分　－　終了 11 時　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">新得町（ヨークシャーファーム）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">北海道内</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">地域協議会</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：先日、タイからの旅行者を受け入れた。実施してみたところ、お客様の満足度は高かったように思う。地域側の反応も新しい体験ができることは楽しく思っている様子。しかし夏になり本業が忙しくなると受け入れてくれる農家さんは少ない。旅行者にとっては北海道の夏に期待が、地元にとっては夏は受け入れられず、この調整が簡単ではない。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（鈴木氏、山岸氏、福井氏）
回答：
・まずはやってみて、試行錯誤で進める姿勢はすばらしいと思う。その時の地域に対するコーディネーターの姿勢がポイント。地域のために外国人を受け入れるのだから、地域の満足度をどうあげるか。どうやって一緒に同じ方向を向いてお客様とつきあっていけるかを常に考え、行動していくことが大切。
・この時期に受け入れて、実際にどんな体験をしたの？農家さん達は「この時期はすることがないから難しい」と言いそうなのに、そんな中で受け入れたのはいい実績。⇒農作業はなくとも、農家生活体験、自然散策などをした。
・大人数を受け入れる形を目指すか、そうでなければ、1 軒からでもいいのでやってみたい農家と組んでみるのも手。その様子をみて「うちでもできそう」となってくれることを目指して。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>荒井</td><td>報告日時</td><td>26 年/12/7</td><td>報告№</td><td>十勝 1</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.9 十勝会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 2</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談会の目的　　インバウンドへの拡大</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年　　12 月　3 日／開始：　9 時　30 分　－　終了 11 時　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">新得町（ヨークシャーファーム）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">北海道内</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">農業・農家レストラン経営者</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：有機農業をしている。畑のレストランや障害者の受け入れもしている。畑の横に宿泊施設も立てた。新篠津村は札幌から 1 時間とアクセスも良い。様々な農村交流のやり方があるが、外国人旅行者の受け入れも考えていきたい。北海道の農業や農作物を世界に発信するいい機会だと思う。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（鈴木氏、山岸氏、福井氏）
回答：
・既に多くの実績をあげておられる。みなさんのお手本になってもらいたい存在！
・有機農業をこれだけの規模でやっている農家さんはそう多くない。本業が忙しい中でもこうして新たな取り組みをされている。我々のような会社やガイドさんの協力を得ながら進めていくことが無理が無い。観光は 1 者がもうけるというよりも、多くの個人や団体が少しずつお金をもらいながら、継続的に続けていくのがいいモデルだと思っている。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>荒井</td><td>報告日時</td><td>26 年/12/7</td><td>報告№</td><td>十勝 2</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.8　十勝会場</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談 3</td></tr>
<tr><td>相談会の目的</td><td colspan="5">資源・コンテンツの有効活用</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 26 年　　12 月　3 日／開始：　9 時　30 分　－　終了 11 時　00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">新得町（ヨークシャーファーム）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">北海道内</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">自治体観光担当</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：役所で観光担当をしている。石狩は農業・漁業がある。札幌とも近い。海浜植物保護センターや風力発電などの環境保全にむけても積極的に動いている。この資源をうまく活用したい。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（鈴木氏、山岸氏、福井氏）
回答：
・北海道の日本海側は、太平洋やオホーツクと比べて水揚げ量は少ないが、多くの種類がとれる。これが特徴だと思う。体験活動の視点からは一種類で沢山の分量よりも、種類が多い方が魅力的。朝市などはうまく活用したい。
・今後のグリーンツーリズムの推進にはコーディネーターを配置することだと思う。石狩市は地理的にも資源的にも魅力的。受け入れ窓口や地元の人たちをつなげられるフットワークの良い人材がいて、その人が地域を駆け回りながら、地域の信頼を得ながらプログラムを作っていく状況にしたい。
・札幌で若者の社会参画を促す NPO などとの連携はどうか？⇒うまくいっていると思う。少しずつだが成果が上がっていると感じている。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>荒井</td><td>報告日時</td><td>26 年/12/7</td><td>報告№</td><td>十勝 3</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="3">3.9 京都府美山町</td></tr>
<tr><td colspan="3">相談会 1</td></tr>
<tr><td>相談会の目的</td><td colspan="2">モニターツアー実施について</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="2">平成 27 年 1 月 31 日～2 月 1 日／開始：13 時 00 分　　～　終了 17 時 00 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="2">京都府南丹市美山町　田歌集落周辺フィールド</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td>美山　田歌集落</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td>㈱野生復帰計画
青田氏　藤原氏</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="2">相談：インバウンド受け入れ体制整備のため、モニターツアー造成について地域を背景としたツアーのあり方と内容について指導・助言をお願いしたい。
➪1/31～2/1 に、田歌舎主催の狩猟体験ツアーに同行し、これをプレ体験モニターツアーと位置付け、ツアーに同行した。その上で外国人向けインバウンドツアーとしての内容・体制について指導助言をおこなった。</td></tr>
<tr><td colspan="2">回答者（福井氏）
回答：「外国人向けに、山村の暮らしの魅力を感じて来ていただくためのポイント等」について以下のような回答、指導をおこなった。
①狩猟だけの魅力ではなく、美山の暮らしと言う面的魅力を創り出す(プロバンスのハーブのある暮らし等を例に挙げて)ことが大切である。そのため、狩猟の体験ツアーに入る前にガイダンスとして、美山の山や里での暮らしや獣害と自然環境のバランスなどについて、スライドを使って見せることとした。また、狩猟に入る前、猟の安全と成功を祈願して、地元の山の神様にお祈りを捧げることをツアーに組み込んだ。
②当狩猟体験ツアーは、外国人向けと同じく 10 名を定員としたが、人気が高く 40 名の応募があり、抽選で 10 名を選び実施した。このことを受け、外国人にも魅力があり、人気のコンテンツになる可能性があるため、特に意識してツアーの内容をできるだけ狩猟の魅力や、その後の「いのちをいただく」など、それぞれのパーツを魅力あるものとするように指導した。その中で、特に自然と人間の織りなす山村の暮らしのありようが伝わるような内容を組み込んだ。
③モニターツアーの具体的な段取り、時間配分、役割分担等について相談、協議した。
④美山の狩猟とジビエ体験に加え、日本の山村の中でも特徴のある茅葺集落（北集落）を歩き、体験するメニューを加えた。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="2">＊相談会後、別途対応や連絡が必要な場合は記入ください。

相談会の様子を以下写真で</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td></td><td colspan="5">写真１．ツアーガイダンスの様子

写真２．狩猟のツアー
 </td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>福井</td><td>報告日時</td><td>27 年/2/28</td><td>報告№.</td><td>京都府南丹市田歌集落</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="6">3.10 熊本県阿蘇市</td></tr>
<tr><td colspan="6">相談会 1</td></tr>
<tr><td>相談カテゴリ</td><td colspan="5">インバウンド受入体制</td></tr>
<tr><td>日時</td><td colspan="5">平成 27 年 2 月 20 日／開始：14 時 30 分　　～　終了　15 時　30 分</td></tr>
<tr><td>会場</td><td colspan="5">熊本県阿蘇市波野大字小地野 663-1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">相談者</td><td>地域</td><td colspan="4">阿蘇市</td></tr>
<tr><td>団体・所属</td><td colspan="4">ツアー受入れ団体　なみの高原やすらぎ交流館</td></tr>
<tr><td rowspan="2">具体的な相談と回答</td><td colspan="5">相談：農山村の魅力を感じていただくために、どのような内容を構成すればよいか、どのレベルでサービス提供をすればよいか大変迷った。また、今後の受入体制作りをどのように考えればよいか？ アドバイスをお願いしたい。</td></tr>
<tr><td colspan="5">回答者（梅崎靖志、山口久臣）
回答：以下の通り回答した。
①モニターツアーの実施内容をふりかえり、今後のポイントの整理を行った。
・今回のツアーでは、普通の観光ではできない体験や交流が、参加者にとって魅力になった。欧米人は、個人でプランして行動することを好む傾向がある。選択メニューや地域情報の提供をすることで、ニーズに合った内容とすることができ、満足度が上がる。年齢層に応じて内容を変化させることも必要。
・、日本の農村の生活文化を体験できる機会を設けることは、特別な体験となる。サービスレベルは、日本人向けと同様で問題ない。
②外国人を受け入れる体制作りを進めるためには、地域にとって外国人を受け入れることの意味と、外国人にとって魅力を感じるツアーコンセプトの両方が必要。高齢化が進む中、地域の協力者に過度な負荷がかかるおそれがあるならば、受入数の調整を行う必要がある。近隣地域のホテル等と協力して広域的な受入体制を作ることもできる。
③やすらぎ交流館が DMO としての体制作りをすることが、継続的に地域で受入れていく上で有効。</td></tr>
<tr><td>その後の
対応</td><td colspan="5">＊相談会後、別途対応や連絡が必要な場合は記入ください。
　来年度以降も、外国人受入体制をつくり定着させるための継続的なサポートを希望。</td></tr>
<tr><td>報告者</td><td>梅崎</td><td>報告日時</td><td>27 年/3/26</td><td>報告№</td><td>阿蘇</td></tr>
</table>

取組４：モニターツアーと検証

4.0 広報と集客について

(1) はじめに―集客の戦略

今回、各ツアーにおいて、それぞれ 10 名を目処に集客を行うこととした。

なるべく多くのモニターを効果的に獲得するため、国内の在日ネットワークやメディアを利用して集客を行った。

(2) 特設ホームページ、英語パンフレットの作成

1) ホームページを開設

各ツアーの内容や概要、同ツアー共通の参加条件を英訳したホームページを開設。海外・在日の外国人ネットワーク内でのシェアや紹介を狙った。関係者やメルマガでの拡散を図る他、twitter や Facebook に定期的に投稿した。

阿蘇のモニターツアーの募集の際、日本人による在日外国人への紹介を促すためには、日本語ページもあったほうがよい、というアドバイスを受け、一部を日本語併記とした。

＊HP 画像入る

Participant are not wanted,now.　参加者募集中のツアーはありません。また、来年度

★Visit rural areas involved in NIPPON GREEN TOURISM★

【Course.B/Aso Town, Kumamoto Prefecture】

Experiencing lifestyle of Aso in winter.

Date:20th Feb. 2015 - 21st Feb. (1night 4meals)
Accepted applicants: 7～10

Schedulea program of Course.B　旅程はこちらから

Joining qualifications.

※ As a general rule, the organizer covers meals, accommodation and transportation included in the program. ※ The participants bear the expenses for traveling up to meeting/end places of each tour, shopping during the tour and eating and drinking outside the program. ※ The organizer takes out accident insurance and liability insurance for participants this time and compensates for injury or illness, and personal accident damage that may occur during the tour. The details are provided separately.

Conditions for Participation

* Tourists with non-Japanese nationality visiting Japan or foreign residents in Japan. * Those who are healthy, able to manage oneself and able to communicate with other participants and local people.Generally 20 years old or older. * Chronic diseases and allergies should be declared in advance. * Fill out a questionnaire as a tester and participate in the discussion. ※ Questionnaire result or advice are utilized when Ecotourism Japan and the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries plan green tourism in future. Personal information is protected. ※ During the tour, staff takes pictures and they are utilized for future promotion. Please inform the staff if there is a problem with it.

How to Apply

If you would like to paticipate,please send a e-mail to the adress below "For Inquiries and Applications". Applications will be closed once all places are taken. The program organizer's office will send detailed infomation and instructions about the tour to those who have been accepted.>
Please fill out the following infomation,

1. Desired tour area.
2. Full name,gender,age,nationality of all participants.
3. Contact infomation(mobile phone,adress)of the representative.
4. Scheduled date and time of arriva, in Japan.scheduled departure date,and arrival and departure airport in Japan.

[For Inquiries and Applications]
NPO Ecotourism Japan　Contact: Yuko Inoue
desk@ecotourism-center.jp
※ Please make inquiries by e-mail.